

道徳科学習指導案

- 1 日時** 令和元年 10 月 11 日（金） 第 3 校時（10：40～11：25）
- 2 学年** 第 4 学年 13 名（男子 6 名，女子 7 名 合計 13 名）
- 3 主題名** 「正しいことを自信をもって行う」（内容項目 A（1）善悪の判断，自律，自由と責任）
- 4 ねらい** 大きく息を吐いてみんなに向き直ったときの純の心情について考えることを通して，正しいと思ったことを実際に行うことの難しさやそれを実行することの大切さに気付き，進んで正しいと思ったことを行おうとする道徳的実践意欲を高める。
- 5 資料名** 「げんたの消しごむ」 出典（小学生のどうとく 4：慶済堂あかつき）

6 主題設定の理由

○ 本主題は，内容項目 A（1）「正しいと判断したことは，自信をもって行うこと。」を基に設定したものである。

人として行ってもよいこと，社会通念として行ってはならないことを判断することは，幼少期から徹底して身に付けていくべきものであり，価値観の多様化している現代社会において，よりよく生きていく上で非常に重要なことである。人は，正しいことを判断して，その判断に基づいて行動するという経験を積み重ねることで自尊心を育み，明朗快活な心で日々の生活を送ることができるようになる。また，自信をもって正しいと判断したことを行うことによって，他人からの信頼を得ることもでき，よりよい人間関係を築くことにもつながっていく。しかし人は，自分の都合や利益を優先したり，他人の意見に左右されたりして，正しいと判断したことに反した行動をとってしまう弱さも持っているものである。

中学年の段階においては，児童は様々な学習や生活を通して，正しいことや正しくないことについての判断力が高まってくる。しかし，正しいことと知りつつもそのことをなかなか実行できなかつたり，悪いことと知りながらも周囲に流されたり，自分の弱さに負けたりしてしまうこともある。よって，正しいと判断したことを実際に行うことの難しさや，正しいことを自信をもって行うことの大切さに気付き，進んで正しいと思ったことを行おうとする道徳的実践意欲を高めることをねらいとして，本主題を設定した。

○ 本学級の児童は，幼少期より同じメンバーで学校生活を過ごしてきたため，お互いのことをよく知っており，仲良く遊んだり，学習活動に協力して取り組んだりすることができる。しかしその反面，人間関係の固定化がみられ，相手に遠慮して言いたいことを十分伝えることができない児童もみられる。自分の都合を優先し，相手によって態度を変えたり，思いやりに欠ける行動をとってしまったりすることもしばしばある。事前に行ったアンケートの結果は以下の通りである。（実施 13 名 7 月 19 日）

質問項目	肯定的回答		否定的回答	
	◎当てはまる	○やや当てはまる	△あまり当てはまらない	×当てはまらない
①周りの人と意見が違っても，自分が正しいと思ったことを自信をもって言ったり，行動したりすることができますか。	46%（6 人）	46%（6 人）	8%（1 人）	0%（0 人）
【理由】	<ul style="list-style-type: none"> ・自分でいけないことはいけないと思って行動できている。 ・いけないことをしている人に注意できた。 ・いけないと思うことは，誘われても断っている。 ・高学年にも注意できた。 ・いけないこと，嫌なことは迷わず注意している。 		<ul style="list-style-type: none"> ・年上の人に注意したり，誘いを断ったりすることができない。 ・正しくないことを言ってしまうことがある。 ・遊んでいて，友達と意見が違ったときわくて言えなかった。 ・悪口を言っている人を止めることができなかった。 ・違う意見を言ったり，注意をしたら遊んでくれなくなるかもしれないので言えないときがある。 	

②自分が正しいと思ったことを自信をもって言ったり行動したりすることができましたか。	100% (13人)	0% (0人)		
それはどんなことですか。(複数回答)	<ul style="list-style-type: none"> ・階段で遊んでいたり廊下を走ったりしている人を注意できた。 ・授業のとき、自分の意見をしっかり発表できた。 ・友達がいけないことをしていたとき注意できた。 ・上の学年の人がいけないことをしていたとき注意できた。 ・友達が嫌なことをされていたとき注意できた。 ・危ない場所や遊びに誘われたとき注意した。 			
③自分が正しいと思ったことを自信をもって言ったり、行動したりすることは大切だと思いますか。	100% (13人)	0% (0人)	0% (0人)	0% (0人)
【理由】	<ul style="list-style-type: none"> ・相手がずっと嫌なことをしてくるといけないから。 ・けがをしたり、危ないことになったりするから。 ・あとでずっとそのことを考えるから。 ・気持ちがすっきりしないから。(できたらすっきりするから) ・人に流されてよくないことをしてしまったらいけないから。 ・大人になったときに言えないとこまるから。 			

このことから、児童は正しいと思ったことを自信をもって行うことは大切だと思っている。しかし、学年の中の特定の友達や年上の児童に対しては、嫌われたり、仲間はずれにされたりするのを恐れて、正しいことを伝えられなかったり、誘われて正しくないことを一緒にやってしまったりする児童もいる。そこで、誰もが自分の都合を優先したり、相手の反応を気にしたりして正しいことを行うことができない弱い面を持っていることに気付かせたい。そして同時に、正しいことを判断し、自信をもって行うことで、自分の心がすっきりして明朗快活な気分で生活できたり、周囲の人とのよりよい関係を築くことができたりすることに気付かせていきたい。

- 本教材は、普段から自分勝手にクラスの中で評判がよくないげんたが、あるクラスメイトとたまたま同じデザインの消しゴムを持っていたことで、その友達の消しゴムを勝手に取ったと複数のクラスメイトから強く責められてしまう。その消しゴムが本当にげんたのものだとクラスの中で唯一知っている純が、本当のことをクラスメイトに伝えるかどうか悩むという内容である。このような状況は、実際の児童の学校生活の中でも起こりうる内容であり、周囲の人の反応を気にしてなかなか正しいことを伝えることのできない人間の弱さや、正しいことを伝えることの大切さについて自分に引き寄せて考えることができる教材だといえる。

導入では、本時のテーマを示すことで、教材を読む際の視点をもたせる。

展開では、まず、教材に描かれている登場人物の関係や場面の状況を、板書を活用して整理することで捉えさせる。そして、お話の中で「悪いのは誰か」について考えさせ、悪いのはげんたを犯人だと決めつけて責めているクラスメイトだということを押さえる。その後、みんなの方を向き直った純の役割演技をすることで、正しいことをしようとする心や正しいことを伝えることの難しさについて共感的に理解することができるようにする。

中心発問では、純がなかなか本当のことをみんなに伝えることができなかった理由について考えさせ、正しいことを自信をもって行うことの難しさについて、理解を深めさせる。また、児童の反応に応じて、多面的・多角的に考えさせる補助発問や視点を変える補助発問、価値そのものについて問う発問等をして、「正しいことを行う」ことの道徳的価値について理解を深めさせていく。尚、これらについて考えさせる際は、適宜ペア対話の場を設定し、多様な考えに触れながら、考えを広げたり、深めたりしていくことができるよう仕組んでいく。

振り返りでは、学習を通して新たに気付いたことや友達の意見を聞いて気付いたことなどを書かせ、学びを深めさせていく。

7 大会主題〔ふるさとに夢や誇りをもって、未来の創り手となる子どもの育成～へき地・複式・小規模校の特性を生かした学校・学級経営と学習指導の深化・充実をめざして～〕との関連

これまで同じメンバーで過ごしてきたことを生かして、実体験に即して学習課題を共有したり、今後の生活の具体につなげたりすることができるようにしていく。また、少人数編成であることを生かし、一人一人が自分の思いや考えを表現する場を十分に確保する。こうして、自分事として考えたり、自分と友達の考えを比べながら聞いたりする機会を充実させ、協同的に学びを深める学習を重ねることで、自らの生き方を考え未来を拓く児童の育成を目指していく。

8 研究主題〔主体的・対話的に学びを深める児童生徒の育成～道徳科における児童の思考を促す発問の工夫を通して～〕との関連

中心発問	補助発問	
純は、どんなことを考え、みんなの方へ向き直ったのだろう。	○ もし本当のことを言わなかったら、どうなるでしょう。 ○ みんなは、本当のことを言わない純と本当のことを言う純とでは、どちらと友達になりたいですか。それはなぜですか。	【多面的・多角的に考えさせる】 【視点を変える】

9 準備物

資料場面絵、ワークシート

10 学習展開

	学習活動	主な発問と児童の心の動き (主な発問(○) 中心発問(◎) 予想される児童の反応(・))	指導上の留意事項と評価 (留意事項(◇) 評価(・)(評価方法))
導入	1 本時の学習の見通しをもつ。	○ 本時のテーマを示す。「正しいことを行う。」 ○ お話の中で、何が「正しいこと」か、考えながら読んでいきましょう。	◇ 教材を読む際の見通しをもたせる。
展開	2 教材を読んで話し合う。 ① 教材の場面において、悪いのはだれか考える。	○ このお話の場面で、悪いのはだれですか。それはなぜですか。 ・げんたを囲んでいるクラスメイト ・げんたがやったと決めつけてみんなで責めるのは間違っている。	◇ 場面絵、短冊等を使い、場面の状況を押さえる。 ◇ お話の状況で、悪いのはげんたを犯人と決めつけているクラスメイトだということを押さえる。 教材との対話
	② 「天使」と「悪魔」が何を意味しているか考える。	○ 「天使」と「悪魔」とは、それぞれどういう心のことですか。 天使 …本当のことを伝えて、げんたを助けようとする心。 悪魔 …見て見ぬふりをしようとする心。	◇ 「天使」と「悪魔」の意味するものについて確認し、純の葛藤する心に共感させる。 教材との対話
	③ みんなの方へ向き直った純の役割演技をする。	○ 「みんなの方へ向き直った」純はどういうことを言うか、実際にやってみましょう。 ・『その消しごむは本当にげんたのものだよ。ぼく、げんたが買っているの見たんだよ。』 ・『決めつけてみんなで責めるのはよくないよ。』	◇ そのように言った「動機」を言わせ、行動の裏にある思いに着目させる。 自己・子供同士の対話

	<p>④ 純が本当のことをなかなか伝えられなかった理由を考える。</p>	<p>(動機)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・げんたが犯人にされるのはかわいそう。 ・げんたを助けられるのは自分だけだ。 ・言わないと後でもやもやして、後悔する。 ・周りの人に何を言われようと、正しいことは、はっきり言うべきだ。 <p>◎ なぜ、純は本当のことをなかなか伝えることができなかったのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・げんたのことが好きではないから。 ・自分は困らないから。 ・言っても信じてもらえるか分からない。 ・相手は集団で強く責めているから、言えるような雰囲気ではないから。 ・みんなから仲間外れにされそうだから。 <p>【補】もし本当のことを言わなかったら、どうなるでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・げんたがみんなから仲間外れにされる。 ・げんたに恨まれる。 ・自分の気持ちがずっとすっきりしない。 <p>【補】みんなは、本当のことを言わない純と本当のことを言う純とでは、どちらと友達になりたいですか。それはなぜですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本当のことを言う方が勇気があって立派。まねをしたい。 ・正しいことをきちんと言える人は信用できる。 	<p>◇ げんたのためにも、自分のためにも本当のことを言おうとする純の思いを共感的に理解させる。</p> <p>◇ ペアトークの場を設定し、お互いに考えを伝え合い、多様な考えに気付くことができるようにする。 子供同士の対話</p> <p>◇ 正しいことを伝えることの難しさについて理解を深めさせる。</p> <p>【多面的・多角的に考えさせる】 正しい選択ができなかった場合を想定し、正しいことを行うことの大切さに気付かせる。</p> <p>【視点を変える】 視点を変えて考え、正しいことを行うことについて理解を深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 正しいと思ったことを実際に行うことの難しさやそれを実行することの大切さに気付いている。 (発言・ワークシート)
	<p>3 難しさを乗り越えて「正しいことを自信をもって行うこと」のよさを考える。</p>	<p>○ 難しさを乗り越えて「正しいことを自信をもって行うこと」はなぜ大切なのでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の気持ちがすっきりするから。 ・はっきり言えたら、堂々としていられるから。 ・次も自信をもって言えるようになるから。 ・周りの人から信用されるから。 	<p>◇ 全体交流を通して、一人一人が自分の思いや考えを表現することで、正しいことを自信をもって行うことについて考えを深める。</p>
<p>振り返り</p>	<p>4 本時の学習を振り返る。</p>	<p>○ 今日、新たに学んだことや友達の見解を聞いて気付いたこと、思ったことを書きましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正しいことを伝えることは大切だと思った。 ・誰に対しても、間違っていることははっきりと間違っていると言えるようになりたい。 ・自分がすっきりした心で過ごせるよう、正しいことは自信をもって伝えていきたい。 	<p>◇ ワークシートを活用し、本時の道徳的価値について新たに発見したことなど自分の考えをまとめさせる。</p> <p>自己との対話</p>

11 板書計画

正しいことを行う

- ・自分の気持ちがあつてり立派、まねしたい。
- ・堂々としていられる。
- ・次も自信をもって言えるようになる。
- ・周りの人から信用される。

場面絵 ③

「天使」…本当のことを言って、げんたを助けようとする心

「悪ま」…見て見ぬふりをしようとする心

「げんたはとつていない。」

「みんなで責めるのはよくない。」

↑

「げんたがかわいそう。」

「げんたを助けられるのは自分だけ後でもやもやして、後悔する。」

「何を言われようと、正しいことははっきり言うべき。」

場面絵 ②

「天使」と「悪ま」がつな引きをしていた。

理由…犯人と決めつけてみんなで責めている。

場面絵 ①

正しいことを行う

げんたの消しごむ

自分勝手 あまり好きではない
ひょうばん×

「ぼく(純)」

「徹君の消しごむ 見当たらない」「ぼくの消しごむ、とつたの？」人がどんどん集まってくる

「げんたのものでまちがいないこのままではげんたがはんにただならぬふん囲気」

げんた 泣きそうな目で見ている

なぜ、純は本当のことをなかなか伝えることができなかったのだろうか。

- ・げんたのことが好きではない。
- ・自分はこまらない。
- ・信じてもらえないから。
- ・みんなで責めているから、言えるような雰囲気ではない。
- ・げんたに味方すると、みんなから仲間外れにされそう。

12 ワークシート

○ 今日の学習で学んだことや考えたことを書きましょう。

○ なぜ、純は本当のことをなかなか伝えることができなかったのだろうか。

げんたの消しごむ

名前 () ()

○ 今日の学習で学んだことや考えたことを書きましょう。

13 教材分析

	子供の思考の流れ	主	対
導入 課題設定がある場合も (学習の構えを持つ)	<ul style="list-style-type: none"> お話の中で、正しいこと、悪いことは何だろう。 	○	
教材を知る (登場人物の状況と心情の確認)	<ul style="list-style-type: none"> このお話の状況で、悪いのは誰だろう。純はどうすべきなんだろう。 	○	
問題場面の確認：課題意識を持つ (課題の焦点化) ◎ なぜ、純は本当のことをなかなか伝えることができなかつたのだろう。 [分]		○	
個としての考えをもつ (登場人物への自我関与) ※ワークシートへの記入	<ul style="list-style-type: none"> げんたのことが好きではないから。 自分は困らないから。 言っても信じてもらえるか分からない。 	●	
他者の考えとの出会い (自分の考えとの共通点と相違点) ※意見の交流	<ul style="list-style-type: none"> 相手は集団で強く責めているから、言えるような雰囲気ではないから。 みんなから仲間外れにされそうだから。 		●
よりよい生き方に向けた議論 (多面的・多角的視点の獲得) 【補】もし本当のことを言わなかつたら、どうなるでしょう。 【補】みんなは、本当のことを言わない純と本当のことを言う純とでは、どちらと友達になりたいですか。それはなぜですか。	<ul style="list-style-type: none"> げんたがみんなから仲間外れにされる。 げんたに恨まれる。 自分の気持ちがずっとすっきりしない。 本当のことを言う純。 本当のことを言う方が勇気があって立派。まねをしたい。 正しいことをきちんとと言える人は信用できる。 		●
学級としてのゴール (課題の解決) ○ 難しさを乗り越えて「正しいことを自信をもって行うこと」はなぜ大切なのでしょうか。 [分]	<ul style="list-style-type: none"> 自分の気持ちがすっきりする。 はっきり言えたら、堂々としていられる。 次も自信をもって言えるようになる。 周りの人から信用される。 		●
子供が自分の言葉で価値を再定義する (新たな自己の生き方への思い)	<ul style="list-style-type: none"> 正しいことをできたら気持ちがすっきり。 自信をもって次からも言える。 周りの人といい関係がつかれる。 	●	
終末 (新たな学びをじっくりと受けとめる) ※振り返り	<ul style="list-style-type: none"> 正しいことを伝えることは大切だ。 誰に対しても、間違っていることははっきりと間違っていると伝えるようになりたい。 自分がすっきりした心で過ごせるよう、正しいことは自信をもって伝えていきたい。 	○	

<発問の立ち位置・4区分> (東京学芸大学 永田繁雄教授)

[共]:「共感的」な発問, [分]:「分析的」な発問, [投]:「投影的」な発問, [批]:「批判的」な発問